

中国（天津）第7回日中韓照明カンファレンス出張報告書

8月22日（金）～23日（土）中国天津大学にて、第7回日中韓照明カンファレンスが開催された。また前日は、組織委員会の懇親会が外部のレストランで催され、22日（金）午前中に第14回組織委員会が行われた。今回照明学会の日本側代表（委員長）としてその両方に出席したので、概要を報告する。

1. **開催日程** 平成26年8月21日（木）～24日（日）

2. **開催場所** 中国天津市 天津大学キャンパス

3. 概要

8月21日は、午後1時半に北京に到着、北京空港から北京南駅に地下鉄で移動、その後高速鉄道で天津に向かった。天津には17時に到着、ホテルには17時20分に到着、その足で懇親会会場に向かった。懇親会には、各国の組織委員、中国照明学会の徐理事長及び実行委員会から天津大学の王教授とそのスタッフが出席した。また日本側からは須藤会長が欠席のため、日本照明工業会理事の瀬川氏（東芝ライテック取締役）出席した。

8月22日の午前は、天津大学の建築系の建物で第14回CJK組織委員会が開催され、日本側の代表として私、東海大学の高雄副委員長、パナソニックの松島委員、東芝ライテックの川島委員（オブザーバー）らが出席した。会議の内容は、午後から開催される第7回CJK照明カンファレンスの予定などについての説明、日本側（IEIJ）から次回の開催地（京都女子大）の説明を行った。

午後からは、今回初めての試みであるワークショップが行われた。8月23日（土）は、終日大会が行われ、基調講演は中国の同済大学のHao先生が「Health Lighting and Innovative Application of LED's on Human Habitats」の演題で講演を行った。3か国から190名の多数の参加者を得て、論文件数110件と昨年の光州大会103件を上回り例年と同規模の大会となり、特に中国、韓国の学生の英語のレベルが上がって来ている。大会終了後晩さん会があり、その後ナイトツアーで天津市内のライトアップを見学した。

4. 第14回CJK組織委員会

8月22日（金）9:00～12:00

場所：天津大学 建築系研究棟2階セミナールームC

出席者：各国委員長が、各国委員を紹介した。

CIES（中国側）

Prof. Luoxi Hao（組織委員）議長 Mr. Shiping Liu（組織委員） Prof. Nianyu Zou（組織委員）
Paper Committee 委員 Dr. Zhe Cui（オブザーバー） Prof. Wang Lixiong（実行委員長） Miss.
Lin Chenyi（実行委員）（オブザーバー）

IEIJ（日本側）

釘持芳生（組織委員）委員長 Dr. 高雄元晴（組織委員）副委員長、Paper Committee 委員
松島公嗣（組織委員）幹事 川島浄子（オブザーバー）幹事

KIIEE（韓国側）

Mr. Jaeman Ryu（組織委員）委員長 Dr. Okhee An（組織委員）Paper Committee 委員、Dr. Kim Hoon Paper Committee 委員 Mr. Chulkeun Son（KIIEE General Secretary[事務局長]；オブザーバー） Ms. Kang Ji-Hee（KIIEE General Secretary；オブザーバー）

4.1 天津大会について

中国側から本大会のスケジュールと論文投稿結果の発表があった。

表1 件数

組織	件数
中国	56
日本	27
韓国	27
キー ノート（中国）	1
合計	111

表2 発表形式

形式	件数
ショートオーラル	15
レジデンシャルセッション	5
ポスターセッション	66
オーラルセッション	24
キー ノート	1
合計	111

表3 学生の発表者数

形式	件数
中国	21
日本	8
韓国	7
合計	36

4.2 審議

4.2.1 論文の質の向上について

日本側の論文委員である高雄副委員長より、論文の審査規定案を提示した。
中韓概ね内容については理解したが、次回の組織員会で審議することとした。

4.2.2 参加国の拡大について

第4巡目から、その他のアジア圏の国を参加出来るようにすることが承認された。

4.2.3 第8回日本大会(案)

以下の案が、IEIJ から出された。

- 1) 第15回組織委員会：2015年1月16日(金)、京都女子大(案)
- 2) 第7回CJKカンファレンス開催日時・場所
日時：2015年8月22日(土)～23日(日)(案)
場所：京都女子大学、日本京都府京都市

5. 第7回日中韓照明カンファレンス（中国 天津大会）

5.1 内容

第14回組織委員会に続き、8月22日午後2時より「第7回日中韓照明カンファレンス」が開催された。今回から1.5日開催となった大会は、3か国から190名の多数の参加者、

論文件数 110 件と例年と同規模の大会が開催され、本大会の 3 カ国での定着化が伺えるものとなった。

開会式は、冒頭の開催国中国の日中韓カンファレンス委員長の開会挨拶に続き、開催場所である天津大学の代表並びに日中韓各国の学会代表の方から祝辞をいただいた。続いて、今回初めての試みとなるワークショップは、各国順番に 1 時間ずつ担当し、各国が決めたテーマのもと、近未来照明の模索～提言、及びパネラ-によるディスカッション等が行われた。その後、第 1 回目の Poster-発表が隣接する展示スペースで開催され、初日は無事終了した。

続く 2 日目は、9 時から基調講演としては開催国中国 Luoxi Hao 氏に「Health Lighting and Innovative Application of LEDs on Human Habitats」の演題でご講演をいただいた。

大会はこのあと、今回で 4 回目となる日中韓住宅照明共同研究チームによる公開発表会「Residential Lighting Session」と「Short Oral Session」15 件が、会場を 2 会場に分けて行われた。その後、第 2 回目の Poster-発表の時間となった。午後は「Oral Session」として再び 2 会場に分かれ各国 8 件合計 24 件の発表が行われた。規模のみならず内容は、今回さらに充実し、大会として日中韓 3 順目にふさわしいものとなった。

閉会式では、優秀論文 6 件と学生発表奨励賞の表彰が行われ、プログラムを終了した。その後の懇親会、続いてバスでの天津の夜の景観照明の見学ツアー-に多数の参加者が有り、好評裏のうちに日程を終えた。

5.2 論文数 111 件（キーノートスピーチを含む） 詳細の内訳及び過去の発表件数を表 1 に示す

表 1 日中韓照明カンファレンス 今回及び過去の発表件数

	基調講演(件)				オーラル発表(件)				ポスター発表(件)				ショートオーラル発表(件)				住宅照明発表(件)				発表合計	
	日本	中国	韓国	計	日本	中国	韓国	計	日本	中国	韓国	計	日本	中国	韓国	計	日本	中国	韓国	計		
第1回中国(北京)	1	1	1	3	4	4	4	12	6	12	12	30	—	—	—	0	—	—	—	0	45	
第2回日本(札幌)	1	1	1	3	5	5	5	15	9	8	10	27	—	—	—	0	—	—	—	0	45	
第3回韓国(ソウル)	1	1	1	3	5	5	5	15	23	14	19	56	—	—	—	0	—	—	—	0	74	
第4回中国(大連)	1	1	1	3	7	9	8	24	23	22	28	73	—	—	—	0	—	—	—	0	100	
第5回日本(東京)	1	—	—	1	8	8	8	24	33	16	35	84	3	3	3	9	3	2	2	7	125	
第6回韓国(光州)	—	—	1	1	8	8	8	24	17	16	42	75	4	4	4	12	1	1	1	3	115	
第7回中国(天津)	—	1	—	1	8	8	8	24	13	41	12	66	5	6	4	15	1	2	2	5	111	
延べ件数、人数					15				138				411				36				15	615

※ショートオーラル発表の件数はポスター発表に含まれる

5.3 参加人数 190 人

	参加者(人)			
	日本	中国	韓国	計
第1回中国(北京)	23	10	21	54
第2回日本(札幌)	33	10	27	70
第3回韓国(ソウル)	50	30	80	160
第4回中国(大連)	40	110	50	200
第5回日本(東京)	99	26	69	194
第6回韓国(光州)	39	25	133	197
第7回中国(天津)	35	155		190
延べ件数、人数				1065

今回の参加者 190 名の国別内訳

日本 30 名(学生 8 名)

中国 115 名(学生 21 名)

韓国 36 名(学生 7 名)

5.4 表彰者(敬称略)

- 1) 一般の部
- | | | |
|----|---------------------|-----------------------|
| 日本 | Oral : Yuki Akizuki | Poster : Kayo Yoshida |
| 中国 | Guan Li | Jingyu Yuan |
| 韓国 | Meeryoung Cho | Jae-Man Ryu |

- 2) 学生奨励賞代表
- | | |
|----|--------------------------|
| 日本 | : Makiko Yoshihara 他 8 件 |
| 中国 | : Yuan Fang |
| 韓国 | : 不明 |

5.5 今回の大会の特徴 大会の特徴は以下の通りである。

- ◆論文件数 111 件、参加者 190 人と例年と同規模の大会が開催され、本大会の 3 カ国での定着化がうかがえるものとなった。
- ◆ショ-トオーラル発表が昨年の各国 4 件から 5 件に増加。1.5 日開催による効果。

6. まとめ及び今後

- 1) 第 3 順目の今年から始まった開催日数 1 日→1.5 日化は、発表数の増加、プログラムの充実に有効であり、来年の日本京都大会も継続していく。
- 2) ワークショップも有意義であったが、各国各々で決定したため、今後は内容の精査と統制化を行うべきかを検討していく。
- 3) 直前の発表取り下げが今回 2 件あった。
→来年からは再確認を行いプログラムへ反映させる事を検討する。
- 4) 全体としては大きな問題もなく順調に進行された。

第14回日中韓照明カンファレンス組織委員会

Conference Room 1 No21Building Tianjin University



高雄元精副委員長

Ms. Kang Ji-Hee
Mr. Son,Chul-keun
Prof. An Ok-hee
Prof. Kim-Hoon
Mr. Ryu, Jae-Man

Prof. Wang Luong
Prof. Zou Nianyu
Prof. Hao, Luo
Dr. Cui, Zhe

劉特芳生委員長
松島公嗣委員長
川島淳子幹事

Mr. Lu Shiping
Ms. Lin, Chenyi

左から右に



(日本側の組織委員)



(会場風景)



日本側参加者：小田、山田、孫、深石（サンシン）
後ろ 和田（サンシン）



(ポスター会場風景)



(懇親会場風景 1)

左から釧持、Kim 教授、Jang 教授（韓国）
王教授（前理事長）、徐理事長、Zou 教授
崔教授（中国）



(懇親会場風景 2)

左から私、王教授（実行委員長）天津大学教授